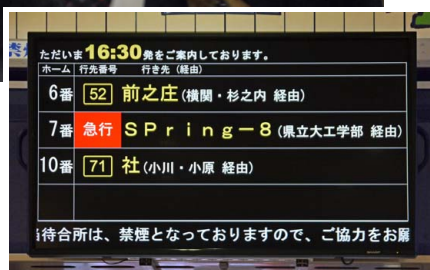


見やすく鮮明な表示で正確な運行案内 世界遺産の街・姫路のPRにも活躍

神姫バス(株)さま

世界文化遺産・姫路城を擁する姫路市。その玄関口となる姫路駅前のバスターミナルの一日の乗降者数は約2万人を数えます。今回、その待合所に52v型インフォメーションディスプレイ3台を導入したところ、明るく精細な案内表示がお客さまに好評をいただいています。



■導入先

神姫バス(株)さま



- 兵庫/姫路市
- 1927年創業。路線バスを中心に、自動車関連サービス、旅行・不動産・飲食・介護などの生活関連サービスまで幅広く事業展開されている。

■導入商品

インフォメーションディスプレイ
PN-E521×3台

- 2010年7月、姫路バス待合所の各のりばへの出入口3カ所に、運行案内表示装置として1台ずつディスプレイを導入。

こんなソリューションを実現しました

Before

導入前(課題)

- 1 これまで使用してきたLEDの案内表示装置は老朽化して文字が不鮮明となり、伝達機能が低下していました。
- 2 従来の装置は文字表示に限定されたうえ、バスの発着がない時間帯は、無表示だったので、もっと有効活用できないかと考えていました。
- 3 世界遺産を有する都市の公共交通機関として、自社の企業理念・ビジョンを地域や国内外からの観光客に伝える方法を探していました。

After

導入後(効果)

- 1 液晶のディスプレイは、長時間使用しても、残像が残らず、くっきりと鮮明な表示ができ、正確な情報伝達ができるようになりました。
- 2 5分以上、バスの発着がないと自動的にバスツアー広告などを画像で表示させるなど、多目的に活用できるようになりました。
- 3 見やすく、クッキリとした文字や画像の案内表示で、お客さまに喜んでいただけ、「感動を創造する」という企業ビジョンが実現できました。

■インタビュー



神姫バス(株)
バス事業部 営業課
佐野 正悟さま

導入の背景

ブランド都市・姫路にふさわしいディスプレイで 利用客に大切な情報をより正確に、ビジュアルで伝えたい。

国内外のお客さまが往来する姫路の玄関口ともいえる場所に関わらず、バスの案内表示装置は10数年前のLEDタイプで、文字も不鮮明で、読みにくさが気になっていました。そこで、早朝から深夜までの連日使用にも耐え、時間が経過しても鮮明さが劣化しない耐久性のある表示装置が求められました。

また、文字だけでなく、画像や映像で地域や当社のイベント情報、旅行等の広告を発信し、アミューズメントプレイスとしてのバス待合所を目指そうと思いました。

選ばれた理由

残像を感じない高精細なディスプレイに信頼感 公共交通機関としての使命にも自信。

バスの運行情報はリアルタイムに見やすく正確に伝わるのが最重要です。さまざまなタイプのディスプレイと比較検討した結果、シャープの液晶ディスプレイは圧倒的に残像が感じられず、くっきりと高精細な文字が鮮やかに切り替わります。その情報伝達の正確さが大きな決め手になりました。

また、当社のように公共交通事業を柱に、生活全般に関わる事業を展開している企業には、社会的使命があります。地域共栄・未来創成という企業理念を理解して設置形態を提案してくれたのがシャープの担当者でした。

導入後の効果

くっきりと見やすくなったとお客さまの声 カラーの多彩な情報発信で待合所に活気。

今回、導入した液晶ディスプレイは以前のLED表示装置より小型なので、文字がやや小さくなったのですが、お客さまからは「むしろ明るく、よりくっきりと鮮明なので、格段に見やすくなった」と大好評です。

また、ラッシュ時が過ぎてバスの運行スケジュールが落ち着いてくる時間帯では、5分以上バスの発着がなければ自動的にバスツアー広告などを表示するように設定しており、待合所に活気が生まれています。

今後の展望

グローバルな視野でお客さまのニーズに対応 動画や英語表示も検討中。

現在は静止画ですが、今後は、動画や分割表示にも挑戦していきます。また、姫路城を訪れる外国の方にも注目していただきたいので、英語表示のシステムも導入を検討中です。グローバルな視野でバラエティ豊かな情報を提供していこうと意気込んでいます。

今後、利用客の多い三宮バスターミナルなどへの導入も検討し、地域観光の活性化にもつなげていければと考えています。



バスの運転手が操作盤で
出発・到着を入力

それをパソコンで一括管理。案内表示装置の
数字に反映される



バス待合所で案内表示のディスプレイを見入られるお客さま



バス停に姫路城の案内板を置くなど、以前からお客さまへの情報発信には力を入れておられた